

ベンチャー GOGO!

児相の業務システム化

福竹 康志所長



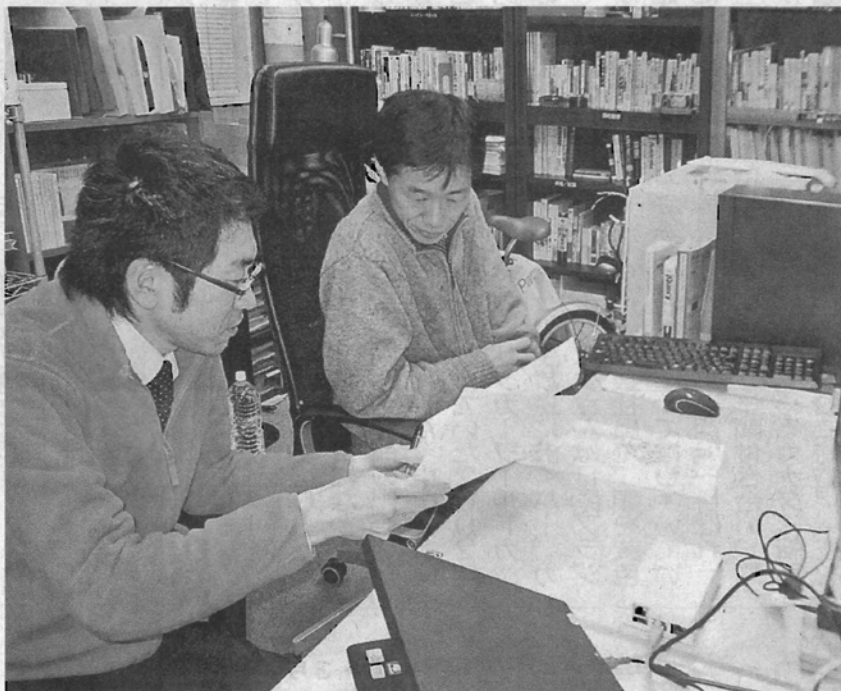
大阪のシステム会社を経て起業した。現在、情報処理学会などに所属するほか、日本心理学会認定心理士の資格を持つ。NPO法人の子どもサポートプロジェクト理事長も務める。京都市左京区出身、山科区在住。45歳。

児 童相談所(児相)向けの業務支援システム(CCMS)を主力製品とする。児童の同居家族や親戚、相談内容や措置などに関する情報を管理でき、最初に納めた京都市の児相では2004年から稼働している。

京都情報化支援事務所は1996年に創業し、2000年に法人化した。メール配信システムなどを手掛けていたが、福竹康志所長は顧客の利益拡大に協力することに閉そく感があつたという。京都市へ納入後、参加した虐待防止学

京都情報化支援事務所

(京都市下京区)



市町村窓口向けに開発中のシステムについて打ち合わせをする社員たち(京都市下京区・京都情報化支援事務所)

会で暴力や育児放棄に遭う子ども面や簡単なバージョンアップ、各がしていることを知り、一人の父親と種情報の検索の速さなどが特長として「たまらなく辛かった」。Cいう。京都市以外に岡山県や浜松CMSは「社会福祉に使われてい、市など4カ所で稼働中で、役員・同社のCCMSは、見やすい画に伴う修正を行う。今月末には、

児相以外の市町村の相談窓口向けに低価格のCCMSを発売する予定で、初年度20件の販売を見込む。

C CMSが行政的な手続きや管理業務をシステム化する一方、家庭の調査や継続した援助活動業務をシステム化するソフトも販売している。このほか、学校の教員がホームページを簡単に更新できる仕組みの構築や運用を手掛けている。

蓄えてきた技術や知識を生かして海外展開を狙う。福竹所長は11年末、入居先の京都リサーチパークで開かれた台湾進出セミナーに出席した。台北市に次ぐ第2の都市、高雄市の関係者の話を聞くうち、CCMSの需要があることを知った。12年から高雄市に半常驻し、人脈作りや事業計画の作成、法制度の調査に取り組む。「トントン拍子には進んでいないが、できるだけ早く売り上げにつなげたい」と13年中の受注を目指す。

他国でも、福祉や教育などに関する事業の機会は拡大していくとみる。「台湾を成功例として、子どもにまつわる分野にIT(情報技術)を活用する取り組みを東南アジアの国々で展開したい」と話す。

(矢ヶ村尚幸)